

教育民生常任委員会

委員長報告

高宮陽一

審査の状況

委員会は九日間開催し平成十八年度会計決算、一般会計・各特別会計補正予算など審査したのでその主なものを報告する。

◆決算関係の指摘事項

保育料の徴収は、過去に保育所で徴収していたところは未納は少なかったが、口座振替となったことで滞納が年々増加傾向

にある。

保育所現場における保育料の徴収は色々と課題もあるが、課題を整理し保育所において徴収するよう検討すること。

各診療所の医師が定まらなかつたことにより、保健事業と各診療所との連携が減少している。地域診療所の役割りとして保健事業との連携は不可欠であり、更に体制を強化すること。

加茂小学校、下西小学校の土地・建物は倉庫として使用しているが売却も含め、有効活用を図ること。

◆補正予算の審査

高齢者福祉施設は指定管理者制度によつて管理運営されているが、施設の修繕費は20万円までのものは指定管理者が負担し、これを超えるものは町が負担

する。公の施設の管理運営に当たつてすべての施設の修繕費が20050万円以上は町負担というのは問題である。例えば、高齢者福祉施設と体育館で同じ考え方では矛盾がある。

指定管理者の中には多額の積立金を保有している団体もあり、契約時には各団体の資産状況なども考慮すべきである。

一人暮らしの高齢者や障害者の安全対策としての「緊急通報システム整備」は、従来、消防署と連携して体制を整備していたが、今後は、高齢者や障害者それぞれ個人が民間企業と契約することになり、平成十九年度から消防署との連携は廃止となる。しかし、町が高齢者や障害者の危機管理(安全・安心)を民間企業に丸投げすることは問題である。

町として、民間企業と連携して一人暮らしの高齢者や障害者に対する危機管理の情報を共有することは不可欠であり、そのための報告・連絡体制を確立すること。

行政視察報告

八月二十七日から三十日に京都府南丹市を訪問し「旧美山町における町づくりの取り組み」の行政視察をした。

京都府南丹市は、平成十八年一月に、園部町・八木町・日吉町・美山町の4町が合併した人口3万5000人余りの新しい市である。旧美山町は昭和三十年に五つの村が合併した人口1万人余り面積の96%以上が山林という林業中心の町だったが、高度経済成長のあおりを受け人口も5200人余りとなった。

全国の中山間地と同様に過疎化による高齢化の加速、基幹産業であった農林業の衰退など、町を取り巻く環境は非常に厳しくなつた。その危機感から「自分達の町は自分達で守る」という視点にたち、行政と住民が一体となつて五つの村に地域住民による振興会を設立

旧美山町を視察



し、町職員を1名、嘱託職員1名を配置した。

振興会では、かやぶき集落の保存やグリーン・ツーリズムの展開、自然体験を希望する宿泊客の積極的な受け入れをするなど「田舎らしさ」を活かした多彩な取り組みを展開した結果、昭和五十年頃には10万人程度だった観光客も、平成十五年には71万人を超え、それに伴う特産品の売り上げも1億2000万円にも達した。また、自然や景観の美しさにひかれ、移り住んでくる転入者も500人を超えている。

島後小中学校校長会との意見交換会

九月七日に島後小中学校校長会の皆さんと教育民生常任委員会委員の意見交換会を行った。

意見交換に先立って、五箇中学校長から「学力向上に向けた取組み」を飯田小学校校長からは「確かな学力育成の取組み」について報告があり、この報告や、この春に行われた島根県学力調査について意見交換した。

学力調査の最終結果は秋頃とのことだが、「この調査が単なる学校の比較とならないように」という意見に対して、校長先生からは「各学校が、その結果をもとに児童・生徒にどのように対応するかである」と考え方が示された。また、各学校において保護者との関係が、近年、大変難しくなつてきているという意見もあったが、これからも学校・保護者・地域が、一体となつて健全育成を図ることが重要である。

すくすく育てね!



産業建設常任委員会

委員長報告

池田 信博

本定例会で付託になった平成十八年度決算認定案4件、十九年度補正予算案3件、陳情1件、要望2件、請願1件の審査結果等について主なものを報告する。

審査の状況

決算関係は、「全会一致で認定すべし」、補正予算

関係は「全会一致で可決すべし」とした。

審査の過程の意見や指摘事項は次の通りである。**十八年度決算認定関係** 島根県東部勤労者共済会は、福利厚生充実が図れる制度であり、商工会と連携して周知活動を徹底すべきである。

く入館者数を増やすために充分協議しながら運営をするよう指摘した。また、シヨベル

ローダー(除雪車)は払い下げも視野に入れ、検討の必要があるという意見が出された。五箇中央簡易水道整備事業は十八年度で完了している。第一水源の代替井戸については早期の整備を県に強く働きかけるべきである。



代替バスの運行

交通通信対策費で廃止代替バス運行費補助金は三年で約950万円増加している。老人・学割パス、路線等の見直しをして改善を図るべきである。

企業誘致活動事業は、コールセンター誘致に時間がかかりすぎているので企業誘致が早くできるように、努力せよと多数の意見が出た。

上水道事業特別会計決算では、使用水量の減少により給水収益は1387万円余の減となり、十八年度純損失は1642万円を超えている。滞納者も増加しているので徴収の徹底を図るよう指摘した。

陳情・要望・請願

隠岐の島町観光協会

長、野村吉秀氏外6名から観光施設連絡路線の早期復旧についての陳情、油井区長、山口力氏から油井川の早期復旧の要望、大津久区長、梶田豪介氏から大津久川の早期復旧の要望の3件については、八月三十一日未明の豪雨災害被害の早期復旧を願う案件であり、観光人口

十九年度補正予算関係

コンベンション開催支

援事業はオフシーズンに島に人を呼ぶことのできる事業であり、今後も活

行政視察報告

八月二十三日に本町と交流のある大阪豊中市役所、豊中商工会議所を訪問しフライト産業の可能性と特産品の販売等についての調査と意見交換をした。

門員への協力要請と意見交換を行った。特産品の販売協力は惜しまないとのことであった。八月二十四日は、明石浦漁港、魚の棚市場、須磨海釣公園等の視察を実施した。



豊中まつり

豊中市職員から、豊中まつり参加の機会に隠岐のPRをしつかりして、会場で特産品を売るだけでなく商品の仕込み等を充実させネット等での販売を考える必要があるとの指摘を受けた。

商工会議所では、電子取引を活用しての特産品販売等について、電子商取引専

拡大を図る重要な路線の確保や住民生活の安全安心な暮らしが出来るようにという内容であり「全会一致で採択」と致した。原田区長、山下康弘氏

提出の八尾川中小河川改修事業等早期完了の働きかけを求めた請願書は、定例会最終日に付託されたため議会閉会中の「継続審査」とした。



シヨベルローダー

五箇支所創生館、郷土館は年一回の運営委員会ではな